

認知症カフェ

開催日 毎月第3水曜日 15～16時（祝日の場合は変更あり）
 場所 江東区新砂3・3・20
 順天堂東京江東高齢者医療センター
 電話 03・5632・3180（認知症疾患医療センター）

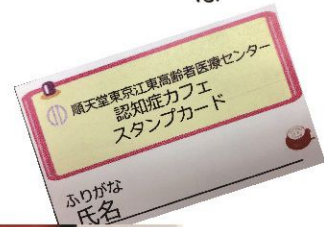
病院ならではのカフェづくり

地域でも認知症カフェが行われるようになり、病院として私たちは何ができるのだろうか、参加者と交流を図りながらニーズを把握していきたい。そんな思いで一昨年から始めたのが、病院だからできるこの「認知症カフェ」。

取材したこの日の専門職によるミニ講話は、薬剤科の薬剤師、高野賢児さんによる「認知症とお薬の四方山話」。

認知症にはどんな薬を使うかなどを分かりやすく説明。

皆さん熱心に耳を傾けており、会場は満席状態でした。



講話の内容は参加者アンケートで！

講話の内容は参加者の希望を中心に決めているのですが、さすが専門職が揃っている病院ならではの充実ぶり。認知症についても毎回様々な角度から取り上げているようです。

参加者も認知症や高齢者問題に関心のある方がほとんどで、リピーターが多いのもうなずけます。

後半は参加者同士で「おしゃべり会」

前半のミニ講話が終わったら後半はテーブルごとにおしゃべり会。参加者同士が自由に語っていました。もちろん認知症の方や介護されている家族の相談等にも病院のスタッフが応じてくれます。毎回来ているという男性の参加者に話をお聞きしたところ「ここ来ると、ためになる講話が聞けるうえ、いろいろな人と話ができるので通っている」と仰っていました。



笑顔のスタッフ

認知症初期と診断されたという方がこの日初めて来られていましたが、スタッフの方が声掛けしてやさしく対応されていました。スタッフのあたたかさがかフェの一番のご馳走だと感じました。最近では満席の時が多いという「認知症カフェ」。初めての方は事前に電話で確認されたほうがいかもしれませぬ。



スタッフのみなさん

e-cafe 東陽

開催日 毎月第2土曜日 13～14時半
 場所 江東区東陽6・2・17「高齢者総合福祉センター」
 電話 03・5665・4547（東陽長寿サポートセンター）

やることを決めない！

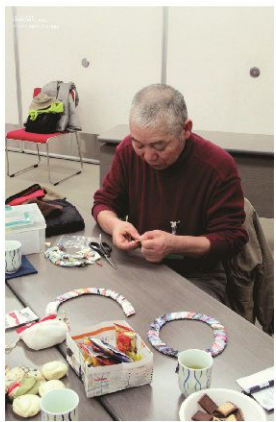
「J」e-cafe 東陽の特徴を主催者・東陽長寿サポートセンターの吉長さんにお聞きしたところ『やることを決めない』とのこと。では、来場者はここにきて何をやるのかと言うと、「やることは来場者自らが持参」。自分でやりたいもの、みんなでやりたいものを持ち寄って楽しんでいるようです。

この日は、お雛様を作っているグループとチラシを活用して鍋敷きを作っているグループがいました。

お菓子も来場者が持参

やりたいものを持ってくるだけではありません。食べたいもの、飲みたいものも持参歓迎。時にはお孫さんを連れて来られる方もいらつしやるようです。

とはいえ持参しなくては入場できないということはないのでご安心ください。自分ができるもの、他の人にも体験してもらいたいものがあれば是非ここで披露してください。



近くのグループホームからも来場者

このカフェのオープン時から親身になって活躍されているのが民生委員の山村さん。日頃から目をかけている近くのグループホーム「コンフォート」さんにも声を掛けその入居者も付き添いの方と毎回一緒にカフェに来場。よい効果があるようです。

ラストは「江東水彩音頭」で体操！

ひとつだけやるのが決まっています。カフェのラストを飾るのは「江東水彩音頭」5番までやるとかなり疲れますがみなさん楽しそうに体を動かしていました。



民生委員のお二人



スタッフのみなさん